



山あいに住む人に聞いた話

都会から帰ってくるときはだいたい定年を過ぎたときか、体の具合が悪くなった時です。
ニュータウンに住んでいるので家の中は都会の暮らしと変わりませんよ

過疎化の対策としては行政は何にもしてくれない。
ほうきちょうをより良くしようという会議は定期的にかかれていますよ

60代 女性

今の田んぼは区画整理がされていてきれいな形になっている。
団地（ニュータウン）などは近所づきあいがうすいですよ。
岸本の部落の中で60戸あるうちの小学校に通っている子供は10人しかいないです。
長男は地元に残ることが多いです。
逆に次男は出て行くことが多いですね。
過疎化に関しての行政との話し合いはないですね。私自身もそこまで関心がありません。特定の話し合いはしていません。

50代 女性

島根と鳥取は高齢化が全国でも進んでいますね、それは過疎化が進んでいるからだと思います。
つまり、産業がないんです。山あいに少なさすぎる。
しかし、島根の斐川には村田製作所という産業があってそれによって若者が出て行くのではなく逆に集まっていますよ。

50代 男性

今の農家は兼業がほとんどです。
岸本でも専業二軒ほどしかありません。
定年がきたら農業をするというかたがおおいですね。それは先祖の土地を譲っていかうという考えからきています。
でも実際はあまりやりたくはありません。なぜなら作物を育てるには条件が厳しくてつらいからです。
農業中心で起業するというひとはほとんどいませんね。

60代 男性

私は都会に出て初めて山あいの空間のよさが分かりました。
でも仕事はありませんね。

20代 女性

私は長男が関東地方にでていますが、「定年になったら農業を受け継ぐ。」と言ってきてくれてうれしかったです。
その長男が、「自分の子供や孫にもそのような考え（先祖からの土地を大切に継ぐ）を受け継いでほしい。」とも言ってました。

70代 女性

この計画に必要なもの



現在の仕事の上で欠かすことのできない存在となっているパソコン。
従来のデスクトップ型から軽くて薄いノート型が開発され、持ち運びが簡単のため、よりフットワークの軽いデータ処理機となった。



情報社会の産物、携帯電話。
誰とでも気軽に話せるようになった。
電話線ではなく、電波を使っているので持ち運びが楽になった。
現在では、通話の他の機能も充実しており、現代社会には必要不可欠の物となっている。

concept

現在の高齢者層が子供のころの山あいのコミュニティは「持ちつもたれつ」の考えから成り立っていた。
しかし、世代交代によりその関係は薄れていく傾向にある。
それに加え過疎化の進行により、山あいのコミュニティ自体が成り立っていくのが難しくなっている。
そのことに対して何も解決策がないまま時間だけが進んでいくと、山あいに住む人がいなくなり、生きられない空間となってしまう。
そこで私は、山あいの新しいコミュニティの形式を提案したいと思う。

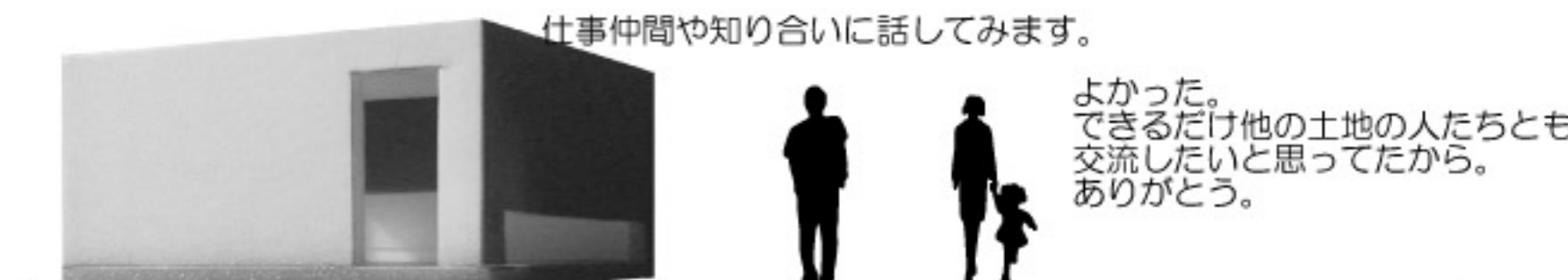
若者が都会に行ってしまうのは、仕事が無いことが大きな原因として挙げられる。
それを解決するため、地域の産業としては、大山の天然水の利用などがあげられる。
しかし、それは今となっては珍しいものではなく、新しい土地利用とはいえない。
そこで、現在の情報伝達技術の発達を利用する。
それは現在、驚くほど高度なものになっており、会社にいなくてもデータ処理や仕事ができるようになっていく。
これを利用して、山あいに簡単な個人オフィスを設置する。そこで都会の会社の仕事を引き受け、山あいで仕事ができるようにする。
その結果、高齢者だけの偏った世代だけが山あいにいるのではなく、20代～定年までの「働く世代」が出現する。
今まで空白であったその世代を中心として、「山あい空間と都会とのつながり」が生まれる。
これにより都会にも情報を発信でき、山あいの外とのつながりが生まれ、今まで空白であった世代と異質地域との交流ができる新しいコミュニティが形成できるだろう。

配置計画図 計画予定地：鳥取県岸本町



配置イメージ図

下のような場所や、家の近くの空き地のような狭い場所でも設置できる。
どこにでも気軽に設置できるように5m四方の空間とした。
この狭い5mの空間の中で、様々な仕事、情報交換ができる。
情報交換をするということは、こちらの山あいの存在をアピールすることも可能である。

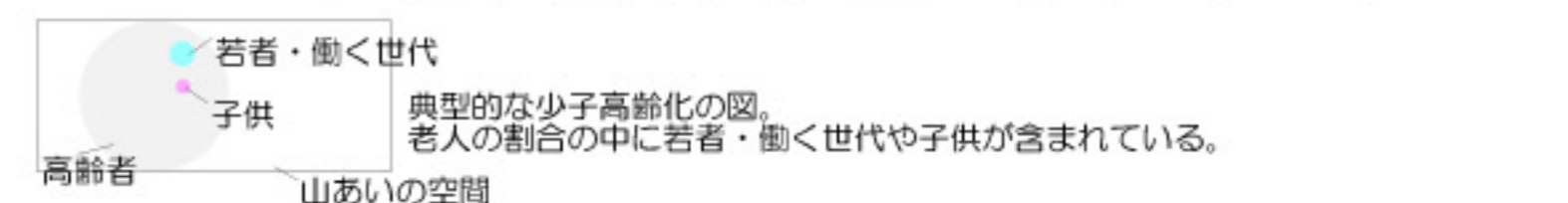


時間の経過のモデル図

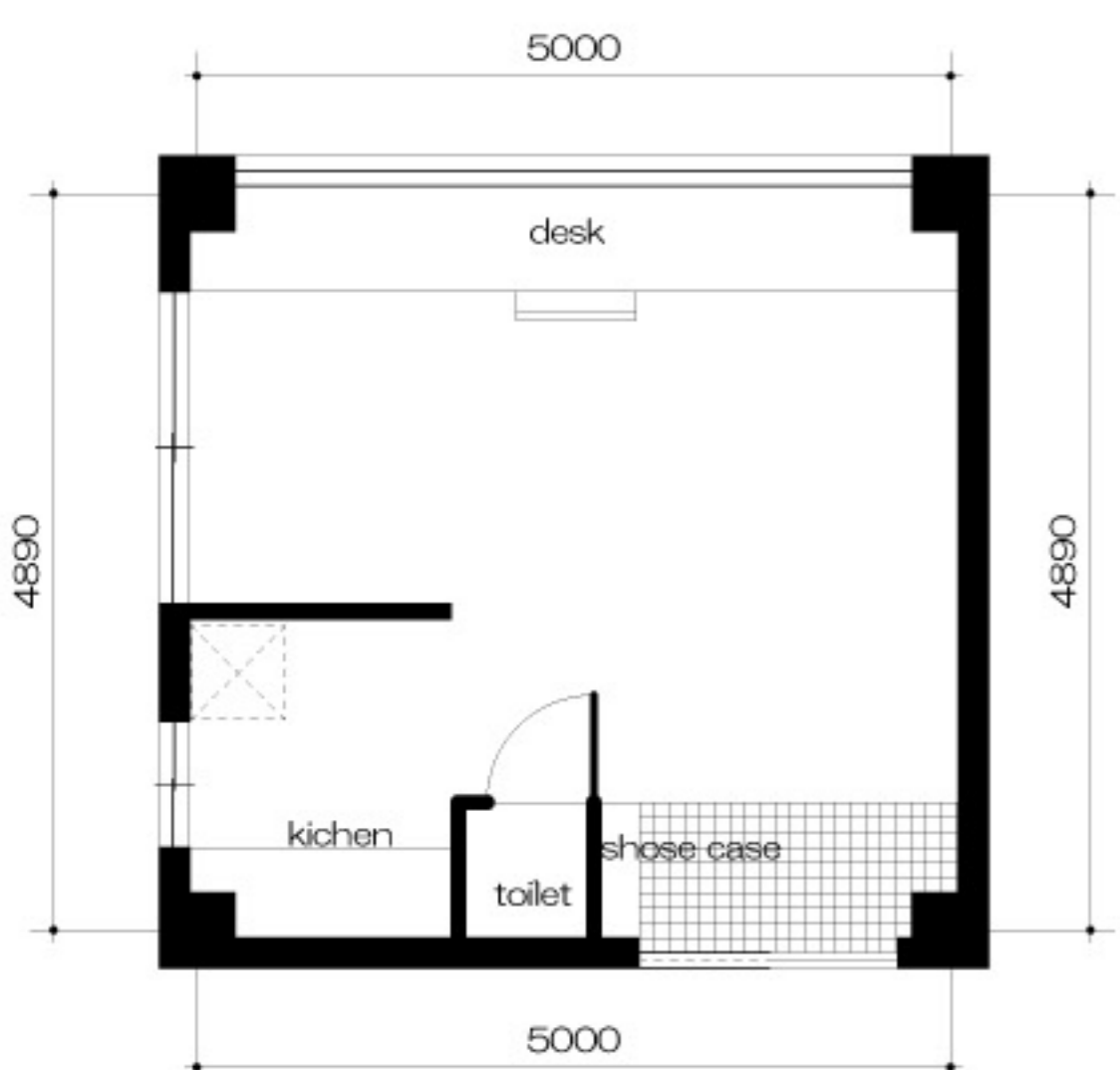
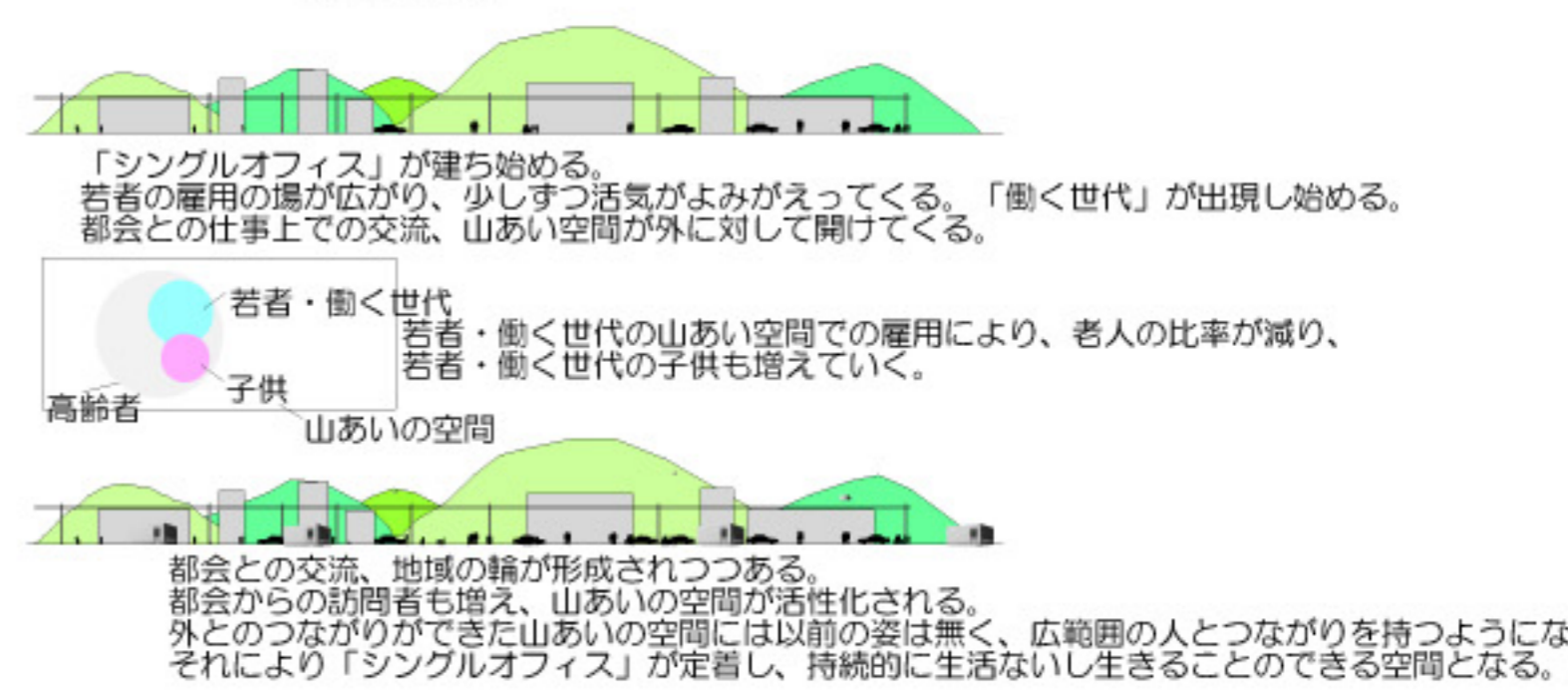
現在の山あい



設置された後の山あい



未来の山あい



平面図 1:50

